

八清親和会 自治会役員のひとり言

令和3年4月27日

No29

八清親和会 副会長

吉田祐治

令和2年度定期総会(書面総会)は、 「嘘でしょ！ 全く信じられない！」ほどの、素晴らしい結果でした。

令和2年度の八清親和会定期総会は、今年も新型コロナウイルス感染拡大の終息見通しが立たず「議案の書面表決による総会」となった。

自治会としては、昨年に続き2回目の経験であったが、昨年の経験による問題点の改善を行い実施した結果、筆者も含め誰もが予測しなかった、素晴らしい結果で終了した。

昨年1年間は、自治会としても未経験の「感染災害」とも言うべき、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中、人が集まる行事や、活動の中止、自粛を強いられた1年間であった。

このような自治会として経験をしたことが無い「感染災害」の中で、自治会活動を進めてきた結果を、会員がどのように評価しているか、気がかりな総会でもあった。

しかし、結果を見てそれは杞憂であったことが分かり、内心ほっとしたのが実状である。

それにも増し、役員誰もが、また、会員も予測しなかった、何処かのスマホコマースシャルの言葉ではないが「嘘でしょ！ 全く信じられない！」と言われるほどの、素晴らしい結果で書面総会を終了することができた。

書面総会の主な結果

- ◇ 総会定数： 100名
- ◇ 書面表決提出： 99名 (書面総会への出席)
- ◇ 未提出： 1名 (書面総会への欠席)

議案表決結果(第1号~8号迄)

- ◇ 賛成 99名 反対 0名 賛否未記入票 0名

議案に対する意見・修正なし

その他：6名の方々から、「新型コロナ災害」の中での、役員・常任委員メンバーによる1年間の自治会運営、活動への感謝や励まし、令和3年度の活動期待等が表決書に言葉で書かれていたことが、役員、常任委員メンバーへの何にも代えがたい贈りものであった。

皆さんのところの、定期総会はいかがでしたか！

如何にして八清親和会の定期総会が、このような結果に終わったか、また出来たのか、公開しますので、皆さんの自治会でも参考にしてください。

八清親和会は、会員数が多いため(現在324名)定期総会は、役員・各区長(常任委員)・組長による「委員総会制」を採用しています。この目的は、委任状が大半を占める総会ではなく、総会資格者ができるだけ会場に足を運び、議案を審議していただく総会を目的にしています。

このため総会資格者は、三役・本部委員・会計監査・相談役・顧問・1年交代輪番制の新旧区長(常任委員)・同新旧組長の100名で構成されています。

このメンバー以外に議決権がないオブザーバー資格の、自治会活動協力団体代表6名+αが加わります。

そして、5年前より取り組んできた、総会欠席者“0”(ゼロ)を目指した取り組みが、年々成果を上げ、昨年、初めての書面総会にも現れ、役員の大きな自信になった。

(尚、欠席者とは、委任状を提出しない欠席者を言う。これをゼロにする取り組みである)

従来自治会総会と言えば、他の自治会同様、平成27年度までは、総会資料に基づき「前年度

の活動、収支実績、新年度の活動、収支計画、重点取り組み項目等」の説明・質疑応答・採決が定番であった。説明者もただ総会資料を見ながら、細々と淡々と説明し、会場の出席者も下を向いて手元の資料をただ目で追っているだけの「何の変哲もない」総会であった。

総会資格者も資料を読めば分かるものをわざわざ出席する必要がない。こんな総会に関心、興味がない等の理由で、5年前は委任状も出さず欠席する資格者が全体の17～20%ほどいた。このままでは、欠席者が増えることを考え、総会資格者に如何に会場に足を運んでもらうかを目指し、総会実施方法の改善に取り組んだ。

この取り組みのキーワードは“総会への関心度向上”として、欠席者“0”（ゼロ）を目指し総会関心度の基準を設けた

1. レベル1 関心度＝出席者 70%以上
2. レベル2 関心度＝出席者＋委任状提出者 90%以上
3. レベル3 関心度＝出席者＋委任状提出者＋欠席者”0” 100%

総会の改善に取り組んでいる過程で、出欠席数字は“自治会への関心度”を現していることにも気が付いた。

総会資格者の新旧区長（常任委員）、新旧組長は、1年交代の輪番制であるため、必ずしも自治会に関心ある人ばかりではないことに気付き、この出欠席や委任状提出数字は、八清親和会の活動に関心を持っているか否かの、一つの判断材料にもなった。

また、当日総会資格者名簿と出欠席や委任状提出を確認するため、仕事の関係や止むを得ない事情での委任状提出か、欠席か、あるいは高齢理由で来られない等の把握もでき、定量だけではなく、定性的な把握分析ができ、平成25年から進めていた改善・改革の取り組みにも活用できた。

一方、欠席者を減らし、出席者を増やす方法としての取り組みは「IT活用による退屈な総会からの脱却、総会資格者が関心・興味を持ち、出席して見よう」という意識を持って貰う総会への変革であった。

今や民間企業の株主総会、講演会等では、当たり前前に使用されている、パワーポイントによる「見せる」「見る」総会の、自治会総会への導入であった。

八清親和会総会のパワーポイント活用は、議案内容だけではなく、総会開始前の待ち時間を使い、前年度の行事・活動実績をスライドショーで紹介して、出席者を飽きさせない工夫も取り入れた。その結果、

(単位：名)	[八清親和会総会の推移]					[書面総会]	[書面総会]
	[28～29年で常任・組長を削減]					令和1年度	令和2年度
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	
定数	118	106	96	96	96	100	
出席者	78	69	52	58	93	99	
委任状提出	20	27	34	33	0	0	
欠席者	20	10	10	5	3	1	
関心度レベル1	66%	65%	54%	61%	97%	99%	
関心度レベル2	83%	91%	89%	95%	97%	99%	
オザバ-出席者※1	—	11	10	11	6	6	

(※1：28年より活動協力団体会長・役員出席人数、議決権ナシ)

(※2：書面総会の出席者は、表決書提出者である。)

今年もこの流れを汲んで、昨年の「書面総会」経験による改善を行い実施した結果、上記表の数字になった。

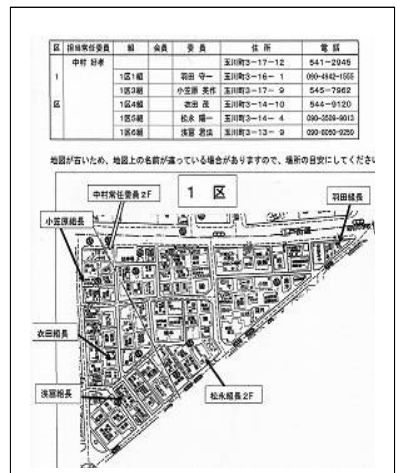
◇初めての昨年度書面総会実施により出た問題点は、

1. 総会資料が、従来通りの会場で説明する前提のままの資料であったため、新常任委員や新組長は、総会資料を見ただけでは理解できなかった部分や、誤解を招き反対票に投じた議案があった。

2. これらを含め、各議案に対する反対票が1票ずつ投じられていたが、全て反対意見や指摘が詳細に書かれていたため、全ての反対意見や指摘については、表決書集計後、文書で曖昧な回答ではなく、明確に、解かりやすく回答し、1件1件訪問手渡し、あるいは必要により説明を行い、次年度へつなげる行動を行った。
3. また、総会資格者が表決前に、総会資料を読んで解からない部分の質問、指摘をしたくても「何処に、誰に（担当）、連絡先等」が不明であったためできなかった。
4. 書面表決（議決）の結果は、常任委員、組長経由で全会員に「書面総会・書面議決結果報告」と「議決後の総会資料」を添付回覧し、書面総会結果の周知を図った。
5. 「書面総会・書面議決結果報告」は、曖昧な表現にせず表決書の提出枚数、総会成立資格審査結果、各議案の議決結果、記された意見、指摘事項の内容等を理解できるように明確に記述した。

◇今年の書面総会で、昨年度の実施継続で良かった点と、問題点の改善を行い実施した結果、成果が出たポイントは、

1. 総会資料を従来の会場での説明が必要な記載内容から「書面総会」用の説明を必要としない内容記述に改めた。
 - ・活動実績報告には、月別活動実績表だけではなく「新型コロナ禍」の中、如何に活動してきたか、また何を重点的に行ってきたかの説明を記述した。
 - ・議案に対しては、主な議案の「趣旨説明・補足説明」を記述した「令和2年度八清親和会総会資料の補足説明」文書を作成して総会資料に添付した。
 - ・昨年の書面表決で指摘を受けた問題点を、全て改善した総会資料にした。
2. 事前に総会資格者全員へ「書面表決により総会（書面総会）への変更連絡と手続き、日程等の周知徹底連絡」を送付し、書面総会への周知徹底を図った。
 - ・送付は、書面総会資料や表決書の提出を意識して、役員以外の「新旧常任委員・新旧組長への送付は（84名分）、新旧常任委員経由新旧組長へ、即ち各区の常任委員から所属の組長に配布する方法を取っている。
 - このため、お互いの場所（住宅の所在）、連絡先が分かる案内図を作成し一緒に配布している。



3. 総会資料・表決書等の送付、表決書の提出方法
 - ・総会資料・表決書の送付、ならびに表決書の提出も役員以外は、上記2項の新旧常任委員経由新旧組長のルートで行い、また逆ルートで表決書の提出をお願いしている。
 - ・但し、役員から常任委員（各8名）への送付は、会長・副会長のペアで直接訪問して手渡し又は、ポストへの投函で送付している。（但し、新常任委員には説明を行い、手渡し配布を行っている）
 - ・役員ならびに旧常任委員はやり方を分かっているためポストへの投函送付。
 - ・常任委員は、組長から提出された表決書と常任委員自身の表決書を、提出期日までに会長宅のポストへ投函する仕組みとなっている。

この方法により、各区常任委員は所属の組長把握と、区内の責任を担って貰っている。
4. 総会資格者が表決前に、総会資料の内容問い合わせや説明要請に対応できるように担当者を定め、表決書に担当者名、連絡先を明記した。
 - ・この結果、表決に当たり新組長3名から問い合わせや質問、説明依頼があり、全ての問いに解かりやすく、又明確に回答や説明を行い理解していただいた。

これらの改善、実施結果により、表決書提出率99%、未提出1名、議案賛成99票、反対0票言う素晴らしい、結果になったのである。

この結果から見えるのは、

◇平成28年からの総会改善取り組みが会員に理解され「総会への関心度」は書面総会にも現れ、総会のみならず、自治会への関心度にも繋がっているものと思われる。

確実に関心度が向上している結果であり、今回の総会関心度レベル2は、99%となり、もう1段上の関心度レベル3の100%に一步近づいたと言える。

◇また、議案に対する賛成又は、反対のはっきりした意思表示の表決が、表決表提出者全員（100%）であったことも驚いている。

◇これは、確り「総会資料」ならびに補足資料を見てくれた証しであると思われる。

◇さらに、新旧常任委員の協力と、常任委員としての自覚と責任を意識してくれている証しでもある。

これらの作業は役員としても手を煩わすが、三役の自治会活動への“本気度”を示し、他の役員、会員との“信頼”を築き、自治会への関心が高まり、行事や活動への参加者増加につながる一步である。

八清親和会は、スピードと、これらの“小さな行動や改善の積み重ねが、結果として大きな成果・結果になっているのである”

このような結果を見ているとすべてがうまく言っているようにも見えるが、決してそうではない。まだまだ1年間の組長もやりたくない等の「総論賛成、各論反対」や「大同、小異」が多々あり、会長・役員はこれらに一つ一つ対応したり、解決しながら進めている日々である。

会員の減少、自治会活動の衰退、会員の高齢化等の問題・課題を抱えている昭島の多くの自治会の皆さん、このような書面総会等を始めとした自治会が抱える問題・課題解決の取り組むきっかけや、ヒントはいくらでもあります。

ただ取り組む行動の一步を踏み出す勇気があるかだけです。 参考になりましたか！

あなたの自治会は、今年の手紙総会・手紙表決結果の反省、総括は行いましたか！

その結果得られたものは何ですか！

次につながる何かが見つかりましたか！

—自治会役員の“ひとり言”です。

以上